

第27回くろつち会総会が
5月18日に開催されました。

議長に、「肝属で生まれ肝属で育ち肝属を愛する」とおっしゃる日高南海雄さんを選出し今年度の活動を話し合いました。

会費値上げ問題

・今年度は会費値上げはせず、きびしい予算の下、やりくりしていくことを決定しました。

役員改選（変更分のみ）

係	旧役員	新役員
会長	飯山春男	野間典文
事務局長	野間典文	竹下幸男
事務局次長	竹下幸男 有馬純隆	梶原 誠 鶴園幸一



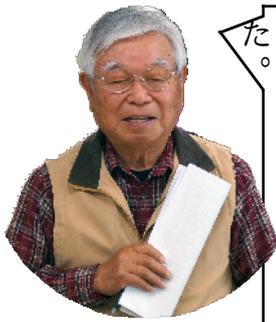
役員改選があり、右表の新役員が承認されました。

- 真島幸則さん市議当選に向けて日夜精力的に活動してこられた飯山春男さんは会長を辞されました。
- 実に20年間にわたり副会長や部長の役員として活動されてきた上山四朗さんが役職を退任されました。



飯山春男さん

61才からずっと役員をしてきました。



上山四朗さん

くろつちの総会ではレベリングが高い。会員宅訪問を創案しました。

飯山春男さん、上山四朗さん、お疲れ様でした。本当にありがとうございました。

新加入者歓迎交流会

むかしがた 昔 語り 手真似も入れっ 花が咲っ



総会の後12時40分より、松尾広豊美、米良晶子さんお二人による司会で歓迎会が開かれました。前野県議、今村労金支店長ご二人の来賓挨拶にはじまり、上菌副会長の乾杯の音頭で開演となりました。

ウーロン茶あり、ノンアルコールあり、もちろん焼酎は何本もステージに並んでいました。メーターが上がる毎に声が大きくなり、足はよろめきながら、話題はまず健康、病気の話が中心、趣味の話になると身を乗り出し、現職のころの思い出、孫の話、次から次へと話題は留まるところを知らず、途中、東串良町のルピナス会から物品販売の方々も見え、酔っ払い相手に商売されていました。たくさん売れたらいいな。



宴がたけなわになると、大小7つか8つの輪ができて尽きない話題で大いに盛り上がりました。終わりになると例によって、日教組組合歌（日高南海雄さん）、団結頑張ろう（牧園剛さん）、閉会のあいさつ（鎌田副会長）で締められました。3時前でした。2次会は、上山四朗さん引率でマイクロバスが笑顔のをせて出発しました。（脇田昭穂）



三浪入会 牧園 剛

今回、三浪を経て入学試験に合格しました。鹿児島に住んでいるため、満足に活動できないかも知れませんが、頑張りたいと思います。よろしくをお願いします。



※次号では、今村久雄さんの話を掲載します。

音楽の不思議な力

No. 6 2 赤いかきの花

日高南海雄



♪ かきに赤い花さく いつかのあの家 ♪
という歌詞で始まる「思い出」という歌は、小学校時代に教わったものです。いきなり「柿に赤い花咲く」とあるので、不思議に思っていました。私たちが目にする柿の花は、普通は白または薄い黄色の溶け込んだ白色です。

赤い柿の花って何なのでしょう。私は5年ほど前までは、柿の実が秋に真っ赤に熟れている様子を歌ったものとはばかり思っていました。12歳から66歳までです。子どもたちにも知ったかぶりで話したことがあります。知らないということは怖いことですね。



5年ほど前に池田小百合著「童謡と唱歌」を読んで、ひったまがりました。「かき」は「柿」ではなく「垣」だったのです。垣根の「垣」でした。



♪ 一 垣に赤い花咲く いつかの あの家
夢にかえるその庭 はるかな昔
鳥の歌木々めぐり そよ風に花ゆらぐ
なつかしい思い出よ はるかな昔
二 白い雲浮かんでた いつかの あの丘
かけおいた草の道 はるかな昔
あの日の歌うたえば 思い出す青い空
なつかしいあの丘よ はるかな昔 ♪

アイルランドの民謡です。この歌詞で1947年（昭和22年）の小学校6年の教科書に掲載され、また、11年後の教科書にも出てきました。

実は、この歌は明治の中ごろにわが国に入ってきていました。明治20年「幼稚園唱歌」に

♪ むかしのむかし いにし むかし
おもかげうかぶ よよのゆめ
きよみが関に たま津しま（繰り返し）
遊びしむかし ゆめにみゆ ♪

これが幼稚園唱歌ですぞ。英語よっかむっかし！

英語での題は「Long Long Ago」です。「長い長いアゴ」ではありません。

この歌詞が翌年には、

♪ 落ち葉をさそう 森のしぐれ
涙と散りて 顔をうつ
ふるさと遠き 旅の空
行き方知らぬ 野辺の道
ひと夜をたれに やど からん ♪

さらに、1913年（大正2）には、

♪ 語れめでし真心を 久しき昔の
歌えゆかし調べを 過ぎし昔の
汝（な）れ帰りぬ ああ嬉し
永き別れ ああ夢か
めずる思い 変わらず 久しき今も

さて皆様は、いつの時代の歌詞ですか？

かごっま弁単語帳 48回 坂田 勝

鹿児島弁単語（薩隅方言）を五十音順にシリーズで連載しています。

- もくろいき：強く。やみくもに。力一杯。
「モクロイキむかすねをうった」（はげしくむこうずねを打った）。
- もぜ：かわいい。かわいらしい。「ムゼ」と同意。「モゼこ」（かわいい子）。「モゾがっ」（かわいがる）。
- もっしょい、もっしょん：強く。たいへん。
- ものごっ：物事。物言い。文句。「モノゴツゆな」（言い訳をするな。文句を言うな）。
- 「ものごちやいわし 遠慮はすいめ」。
「いわし」「するめ」と魚に関係したことを並べ、会席で出されたごちそうを、何だかんだとって遠慮をしないで、「さっさと食べてください」と心から勧めている気持ちが、あっさりと表現されている。
- 「ものごちやいよう なしゃかみよう」（物事や言いよう梨や噛みよう）。果物の梨も噛み方次第では味が違うように話も言い方次第で角が立たず丸く収まる。「丸い卵も切り様じゃ四角」もある。
- 「物事や固（かど）せ 酔味噌はゆるせ」
物事はいいかげんにせずきちんとせ

- よ、酔みそはやわらかい方がよい。軽々しく口約束をした仕事や物品の貸し借りなどいいかげんにしたために後悔することが多い。きちんとすべきことはきちんとせよとの戒めのことばである。（かごしまの教育伝承）。
- もへ：最早。もう。早くも。「モへもどっきたとや」（もう帰ってきたの）。「モへすつとや」（もう、行動するのか。まだ早すぎはしませんか）。
- 「もへじ（爺）とからじ（爺）」。「もへ爺」は外に先立って行動を起こす男の人であり、「から爺」はのんびりしていつも他人の後から動き出す人である。人に遅れて慌てて仕事をするよりも、他に先んじて余裕を持ち、準備万端整えて仕事にかかるほうが有利であるという意味のことわざ。
- ももじいたくっ、もんたくい：もみくちやにする。くしゃくしゃに揉む。「かんぬモンタクイ」（紙をもみくしゃにする）。
- もやし：たやすい。簡単な。容易である。「こんもんだいはモヤシ」（この問題は解くのが簡単だ）。「もやし」「みやし」も同意。

本紹介／ 「茶色の朝」（本文は絵を含め30ページ）
フランク・バヴロフ 作・藤本一勇・訳（大月書店¥1,000）

茶色はフランスの読者にとってはナチスを連想させる色だそうです。手にしたことのある会員も多いと思います。絵本に近い本ながら、深く考えさせられる物語です。後のメッセージにあるように「全てが茶色だけになってしまう」物語です。茶色でない犬や猫は処分され、世の中が茶色一色になっていきます。

こともあろうに、現在は茶色の犬猫を飼っていないなくても、以前飼っていたというだけで犯罪ということになり、ある朝、官憲がドアの外にやって来ます。（2000年頃フランスの若者の間で話題になり、あっという間に全世界に広まった本だそうです。ネットで調べたら鹿屋市立図書館にもあります。ただ、著者は子ども向けでなく若者向けに書いたはずなのに、なぜか子どもコーナーにあるようです。）

昨今の憲法改悪問題、秘密保護法、集団的自衛権の問題、日本に再び「茶色の朝」を迎えさせてはなりません。（文責：樋園）



ヴィンセント・ギャロ 絵